

社会科(歴史的分野)学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)

5 校時 13:25~14:15

学校名 中学校

対 象 第2学年1組 36名

会 場 教室

授業者 〇〇 〇〇

1 単元名

「日本の近世② 江戸幕府の成立と対外関係」

(使用教科書:「社会科 中学生の歴史」帝国書院)

2 単元の目標

- ・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。
- ・交易の広がりとその影響、江戸幕府の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子、幕府と藩による支配の確立の国内外への影響を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・江戸幕府の諸政策に関心をもち、幕府と藩による支配の確立によって国内外への影響が見られた近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする度を養う。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	①交易の広がりとその影響、江戸幕府の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子、幕府と藩による支配の確立の国内外への影響を多面的・多角的に考察し、表現している。	①江戸幕府の諸政策に関心をもち、幕府と藩による支配の確立によって国内外への影響が見られた近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年3月告示)第2章第2節社会第2各分野の目標及び内容 歴史的分野の2 内容Bの(3)、3 内容の取扱い(3)ウについて取り扱ったものである。その内容と内容の取扱いについては、次のように示されている。

2 内容

B 近世までの日本とアジア

(3) 近世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(イ) 江戸幕府の成立と対外関係

江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

3 内容の取扱い

(3) 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

ウ (3)のアの(イ)の「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱うようにすること。その際、アイヌの文化についても触れること。「幕府と藩による支配」については、その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなどに気付かせること。

この中項目では我が国の近世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。そして本単元は、近世の安定した社会の基礎を作った江戸幕府の成立と外国との関わりを扱う「江戸幕府の成立と対外関係」で示された知識を身に付けることと統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付けることを目標としている。

その際、「江戸幕府の成立と大名統制」、「身分制と農村の様子」、「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」などを基に、幕府と藩による支配体制が確立したことを理解するために、中世とのちがいを比較したり、身分統制や対外政策の目的を考察し幕府の支配体制と関連付けたりするなどの見方・考え方を働かせられるような課題を設定する必要がある。

以上のことから、本単元では「統一政権の諸政策の目的」に着目して幕府と藩の支配が確立したことを理解できるように、「なぜ、江戸幕府は260年以上続いたのだろうか」という大きな問いを投げかけ、安定した社会の形成の理由について「江戸幕府による大名統制」、「身分統制」、「対外政策」という視点から考えさせる。そうすることで生徒たちは、前単元までに学習した中世社会から転換した近世社会の特色を捉えやすくなり、この中項目で取り扱う近世の日本の事象を相互に関連付けて考察させることができると考える。そして、「なぜ、江戸幕府は260年続いたのだろうか」という問いに答えることで、我が国の近世の特色について多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現できることを目標とする。

また、本単元は小学校第6学年でも取り扱う内容であり、小学校学習指導要領では、「江戸幕府

の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること」とあり、「徳川家康、徳川家光」などの人物を中心に学習したことも踏まえ、歴史的事象の説明ではなくその事象の歴史的意義を考察させる必要がある。そのために毎時間、「なぜ、江戸幕府は260年以上続いたのだろうか」という発問に立ち返らせる機会を設け、本単元の目標に迫る。

(2) 生徒観

第2学年1組は、社会科の授業に対して静かに話を聞くなど真面目に取り組む生徒が多いが、挙手して発言するなど積極的に授業に参加しようとする生徒はあまり多くない学級である。生徒の実態を把握するために4月初めに「江戸時代」について事前アンケートを実施した。有効回答数は35である。質問項目と第2学年1組のアンケート結果は、以下のとおりである。

質問項目1：あなたは「江戸時代」に興味や関心がありますか。

質問項目1に対する生徒の回答は、「ある」が4名で全体の11.4%、「少しある」が15名で全体の42.9%、「あまりない」は13名で全体の37.1%、「全くない」が3名で全体の8.6%であった。また、「ある」「少しある」の肯定的な意見の生徒が19名で54.3%、「あまりない」「全くない」の否定的な意見の生徒が16名で45.7%であった。この結果から、生徒の「江戸時代」に対する興味や関心が高くないため、生徒の興味・関心を高める工夫が必要であることが分かった。

質問項目2：あなたは「江戸幕府の政治」に興味や関心がありますか。

質問項目2に対する生徒の回答は、「ある」が4名で全体の11.4%、「少しある」が11名で全体の31.4%、「あまりない」は15名で全体の42.9%、「全くない」が5名で全体の14.3%であった。質問項目1と比較して肯定的な意見の生徒が少なく、否定的な意見の生徒が半数を超えている。

質問項目3：あなたが「江戸時代」や「江戸幕府の政治」について知っていることを教えてください。

(複数回答可)

江戸時代				江戸幕府の政治			
徳川家康が幕府を開いた	11名	絵踏み、寺子屋などの単語	2名	キリスト教徒の弾圧・絵踏み	3名	老中などの役職	1名
100年以上続いた(400年続いた)	2名	安定してきた	1名	生類憐みの令	2名	武家諸法度	1名
織田信長についての記述	2名	商業が発達	1名	参勤交代	2名	刀狩り	1名
豊臣秀吉についての記述	2名	鎖国・開国	1名	鎖国	2名	寺子屋	1名

質問項目2で否定的な意見が多かった「江戸幕府の政治」については、記述できた生徒が11名しかおらず、多くの生徒がわからない、覚えていないと記述している。理由として、小学校での学習が定着できておらず知識が少ないことが、「江戸幕府の政治」についてその様子を想像しづらくさせていることが関係していると考えられる。しかし、「江戸時代」についての記述では、年数こそ違っているものの、長く続いたことや安定した時代であったことというイメージをもっている生徒もいる。

そして、質問項目2及び3の内容から、小学校での江戸時代の学習内容を定着出来ていない生徒

が多く、江戸時代の政治の様子をイメージできていない生徒が多いため、既習事項を振り返ることと、生徒が当時の様子イメージしやすいように工夫する必要があることが分かった。

以上のことから、本単元では江戸幕府の諸政策の目的と武士の政治の安定という視点とを結びつけ、「なぜ、江戸幕府は260年以上続いたのだろうか」という大きな問いを投げかけることで関心を高めるとともに、前単元で学習した「世界の動きと統一事業」や小学校における「江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制」の学習内容を振り返りながら、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。そして、次の単元で学習する「産業の発達と町人文化」や「幕府の政治の展開」につなげ、単元全体で近世社会の特色を多面的・多角的に考察できるように指導する。

昨年度までの学習でペアワークによる復習やジグソー学習、ディベートなどを取り入れ、様々な立場から社会的な事象を見る多角的な視点をもつことを経験した。また、社会的な事象を複数の側面から捉えるような活動を取り入れてきたことで、多面的な視点をもつことも経験した。本単元ではこれまでの学習を踏まえ、江戸幕府の諸政策を様々な立場や側面から捉えることで、社会的な事象を多面的・多角的に捉える視点を向上させるとともに、「事象相互のつながり」や「比較・推移」といった「社会的な見方・考え方」を自在に働かせることに近づける必要がある。

また、これまで学習し獲得した知識・技能を活用して表現する活動として、パフォーマンス課題を設定して評価してきたが、課題を提出する（できる）生徒とそうでない生徒の二極化が明確になってきたため、生徒一人一人の自己調整力を高める指導と他者と協力して課題に取り組む機会を与えることが必要である。

(3) 教材観

単元観、生徒観を踏まえて本単元では、生徒が単元全体の構造を把握し、単元を見通した問いに毎時間立ち返って振り返りができること、また、既習事項を活かしてまとめの活動としてのパフォーマンス課題に取り組むことができるようになることを目指して、「単元見通シート」を使用する。「単元見通シート」の詳細については後述するが、これを利用することで単元を見通した問いへの粘り強い学習姿勢や生徒一人一人の自己調整力などの「学びに向かう力」の育成を目指す。

また、本時の授業では江戸幕府の諸政策を相互に関連付けて考察できるように知識構成型ジグソー学習を取り入れる。これにより、自分の立場の主張を根拠づけて説明するだけでなく、相手の考えを取り入れることで、江戸幕府の諸政策の目的について多面的・多角的に考察させ、本単元の内容がより主体的・対話的で深い学びとなることを目指す。

授業においてはワークシートの使用を中心に進め、授業終了後にノート見開きの左側にワークシートを貼り付けるように指導している。ノートの右側には板書の内容や課題に対する他者の意見をメモ書きさせることによって、授業の内容を自身の言葉でまとめられるスペースを確保している。ワークシートの作成の際は、板書を写す時間を短縮し生徒の考える時間を確保すること、重要語句を整理しやすいこと、グループ活動の成果が書かれたものを事後に見直すことで知識が定着することの3点に留意してワークシートのレイアウトを工夫し作成する。

5 年間指導計画における位置付け

《2 学年 歴史的分野：年間 45 時間》

(1) 近世の日本

- ア 世界の動きと統一事業（7 時間扱い）
- イ 江戸幕府の成立と対外関係（6 時間扱い）・・・《本時を含む単元》
- ウ 産業の発達と町人文化（4 時間扱い）
- エ 幕府の政治の展開（5 時間扱い）

(2) 近代の日本と世界

- ア 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き（7 時間扱い）
- イ 明治維新と近代国家の形成（5 時間扱い）
- ウ 議会政治の始まりと国際社会との関わり（6 時間扱い）
- エ 近代産業の発展と近代文化の形成（5 時間扱い）

6 単元の指導計画と評価計画（全 6 時間）

単元を見通した問い「なぜ、江戸幕府は 260 年以上続いたのだろうか」			
	目標	○学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第 1 時	本時の問い「江戸幕府はどのように成立したのだろうか」		
	江戸時代が長く続いたことに関心を持ち、江戸幕府成立の経緯についての知識を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 江戸時代が長く続いたことに関心をもつ。 ・ 鎌倉幕府、室町幕府と比較しながら、江戸幕府が政権を握っていた期間を年表から読み取る。 ・ 「なぜ、江戸幕府は 260 年続いたのだろうか」という問いについて既習事項を基に予想を立てる。 ○ 江戸幕府成立の経緯について学習する。 ・ 江戸幕府が成立するに至る歴史的事象について、教科書、資料集などから読み取り、その経緯を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> アー①（机間指導・ワークシート） ウー①（単元見通シート） ※ウの観点については、単元の最後に変容を見取るために評価を行うとともに、学習改善につなげていく。

第2時 【本時】	本時の問い「中世と比べて江戸幕府の政策にはどのようなちがいがあるのだろうか」		
	江戸幕府の諸政策の特色を中世のものと比較して資料から読み取り、江戸幕府の諸政策についての知識を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 江戸幕府の諸政策の特色を読み取る。 ・ 「幕府の仕組み」、「きまり・法律」、「全国の支配の方法」、「民衆の支配の方法」をキーワードに、与えられた資料を使って、生徒同士で江戸幕府の諸政策について学びあう。 	アー①(机間指導・ワークシート)
第3時	本時の問い「江戸幕府はどのように国内を統制しようとしたのだろうか」		
	前時で学習した江戸幕府の政策によって、幕府はどのように人々を支配したのか様々な側面から考察し、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料から江戸幕府の支配の特色を考察する。 ・ 前時の資料の内容の確認をする。 ・ 江戸幕府の身分統制について学習する。 ・ 江戸幕府は人々をどのように支配したのか、幕府政治の特色を考察する。 	アー①(発言内容・ワークシート) イー①(机間指導・ワークシート)
第4時	本時の問い「江戸幕府はなぜ対外政策を転換したのだろうか」		
	江戸幕府の対外政策についての知識を身に付け、政策が転換した理由を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 江戸時代の対外政策が転換した経緯を読み取る。 ・ 江戸時代初期の対外政策について学習する。 ・ 江戸幕府が対外政策を転換したきっかけを資料から読み取る。 	アー①(机間指導・ワークシート)

第5時	本時の問い「鎖国下ではどのように対外関係を結んでいたのだろうか」		
	鎖国下の対外関係について資料から読み取り、その知識を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鎖国下の対外関係の特色を読み取る。 ・ 鎖国下の4つの窓口「長崎」、「対馬」、「薩摩」、「松前」を分担して、どのような対外関係を築いたのか調べ、その内容を共有する。 	ア－①(発表内容・ワークシート)
第6時	本時の問い「なぜ、江戸幕府は260年以上続いたのだろうか」		
	単元の学習を活かして、江戸幕府の諸政策が安定した社会の確立にどのように影響したか考察し、近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する態度を養うとともに、自分の考えを表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本単元の学習内容を振り返る。 ・ 「江戸幕府の仕組みの特色」、「大名の統制の特色」、「貿易の統制の特色」、「農村の統制の特色」の4つの視点から幕政の特色をグループで考察する。 ○ 単元を見通した問いの答えを考える。 ・ パフォーマンス課題に取り組み、なぜ江戸幕府が260年以上続いたのか考え、近世前期の社会の特色をまとめる。 	イ－①(発表内容・ワークシート・単元見通シート) ウ－①(単元見通シート)

7 指導に当たって

(1) 「単元見通シート」について

このワークシートは、単元の指導計画を作成する際に、単元の内容や時間のまとまりを見通した「単元を見通した問い」を設定し、各授業において「社会的な見方・考え方を働かせることができる問い」に答えることでその授業の内容を毎時間まとめ、単元の最後にそれまでの記述内容を基に「単元を見通した『問い』」に答える、という流れで単元を「問いによって構造化したものである。

この「単元見通シート」を作成・使用することによって、授業者は生徒が「単元を見通した問い」を解決するために、「社会的な見方・考え方を働かせることができる問い」を単元全体で構造的に配置し、単元を可視化することができる。また、生徒は、見通しをもって授業に臨むことができるとともに、社会的な見方・考え方を働かせて解答する「問い」によって単元が設計されているため、

単元のまとめを行う際に多面的・多角的な考察や構想が可能となると考えられる。このように「単元見通シート」は、授業者と生徒の双方が単元や内容のまとまりを意識して学習に取り組むことができるようになることを目的として作成したものである。

(2) パフォーマンス課題について

パフォーマンス課題とは、実際的な文脈の中で、様々な知識や技能を応用・総合しつつ何らかの実践を行うことを求める課題である。具体的には、レポートや新聞といった完成作品や、プレゼンテーションなどの実技・実演を評価する課題である。一般的な筆記テストは知識について何を覚えているかを測ることに適しているが、パフォーマンス課題ではその知識や技能を使いこなす能力を測ることができる。

【参考文献】

西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年

中野英水『パフォーマンス課題を位置づけた中学校社会の単元&授業モデル』明治図書出版、2019年

西岡加名恵・石井英真『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準、2019年

※現時点で「班テーマ」が決まっていないため、「班テーマ」に関する記述ができていない。

8 本時（全6時間中の第2時）

(1) 本時の目標

- ・江戸幕府の諸政策の特色を中世のものと比較して資料から読み取り、江戸幕府の諸政策についての知識を身に付ける。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 5分	○前時までの内容を振り返る。 ・既習事項を振り返り、江戸幕府がどのように成立したか、ペアワークで確認する。 ・本時の課題を確認する。	・本時のタイトル、本時の問いを板書する。 (ワークシートを配布する)	
本時の問い「中世と比べて江戸幕府の政策にはどのようなちがいがあるのだろうか」			
展開 ① 10分	○江戸幕府と中世の政策のちがいを資料から読み取る。 ・グループで「幕府の仕組み」、「きまり・法律」、「全国の支配の方法」、「民衆の支配の方法」の4つの資料を分担し、それぞれ担当の資料から読み取った内容をノートに記述する。	・自分の力で読み取ることが難しい生徒には、机間指導を行い、資料の内容を要約するなどして、どのように読むのか助言する。	アー① 与えられた資料から江戸幕府と中世の政策のちがいを適切に選択し、読み取ることができている。 (机間指導・ワークシート)

展開 ② 10分	<p>○調べた内容について意見交換を行い自分の考えを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの項目のうち、同じ項目を担当した生徒同士で集まり、それぞれ自分が読み取った内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元のグループに戻って発表できる内容になるよう、机間指導を行って支援する。 	
展開 ③ 10分	<p>○元のグループで発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元の4人グループに戻り、グループ内で自分の調べた内容を順番に発表する。 ・4つの資料についてそれぞれの発表を聞き、発表内容をワークシートの所定の欄に記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートには、発表の内容のすべてを書くのではなく、要点のみを記述するように指示する。 ・机間指導を通して記入状況を把握する。 	
展開 ④ 10分	<p>○「中世と比べて江戸幕府の政策にはどのようなちがいがあのか」という問いに対して、意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの資料を基に4人グループで意見を出し合う。 ・ホワイトボードを使用して全体で意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにホワイトボードを配布する。 	
まとめ 5分	<p>○「中世と比べて江戸幕府の政策にはどのようなちがいがあのか」という問いに対して、自分の考えをまとめ、次の授業につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習したことを振り返り、意見交換した内容を踏まえて自分の言葉でまとめる。 ・次回の授業で意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むことができている生徒には机間指導により、本時の学習内容を踏まえるように助言する。 	<p>アー① 江戸幕府の諸政策の特色を中世のものと比較して資料から読み取り、江戸幕府の諸政策についての知識を身に付けている。 (机間指導・ワークシート)</p>

(3) 板書計画

2	江戸幕府の政策	◎「中世と比べて江戸幕府の政策にはどのようなちがいがあのかだろうか」								
A	「幕府の仕組み」	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">各班のホワイトボードを掲示</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>			各班のホワイトボードを掲示					
各班のホワイトボードを掲示										
B	「きまり・法律」									
C	「全国の支配の方法」									
D	「民衆の支配の方法」									

※TVモニターで、プレゼンテーションソフトを用いて作成したスライドを提示する。

(4) 授業観察の視点

- 本時の学習内容は、本時の目標及び単元の目標を達成する上で適切な内容であったか。
- 本時の学習内容は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から見て適切な内容であったか。
- グループワークの活動や課題が、本時の目標を達成するために適切な内容であったか。
- 「単元見通シート」は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から見て適切な教材であったか。